

提 言

3万人のための情報誌と称する「選択10月号」に興味ある記事が掲載されている。部材メーカー生き残りの「大転換」。「トヨタのテスラ」という潮流と銘打った記事である。内容の詳細は割愛するが、日本の部材メーカーがトヨタをはじめ日本の自動車メーカーに見切りをつけ、米国や中国のEVメーカーとの関係強化を報じる内容である。劣化列島日本を象徴する内容であり、今回はこれを取り上げた。

株式会社アルファTKG社長 高木 俊郎

日本の製造業 再起動に向けて

●●92●●

解説では、部品・素材メーカーの日本企業離れをのちに分析している。「その原因は、日本の完成品メーカーの横暴な発注姿勢である。材料コスト増、人件費増のなかでも値引き要求を恒例化、受注側は知的財産権のある設計図を平気で持ち去る、発注数量を直前に変更する(中略)中国企業でも珍しいえげつなさ(後略)」と断言している。ガソリン車の片手間で開発するVでは、グローバルの激しい競争に力打ちできない。優れた部品・素材メーカーの経営判断は、『トヨタが続ける「平身」のEV開発』と心中するものはない。と将来的トヨタ劣勢を予測する手厳しい指摘をしている。完成品メーカーは、突然出現した超巨額の急ぎ発注により空前の利益に沸き立っているが、系列崩壊は先々の死胡同問題である。グローバル

劣化列島日本／希望と勇氣⑩ 沈下する(日本の)完成品メーカー「ジュミット崩壊」

まが、ところが、田安効果で競争力低下の現は覆い隠され、好決算に湧いている。好決算の半面では出荷台数の減少に悩む部品メーカーも少なくない。田安効果で利益は出ているものの、実際の生産量が減少しているため、精密板金業界では生産量が下降気味である。半導体製造装置など一部の業界は、膨大な発注に支えられ長期にわたる活況が続いているが、精密板金業界は「超・忙しい企業」と「超・暇な企業」の二極化現象が際立ってきている。2005年は、37年前のプラザ合意

azbil 株式会社 アズビル

踏み出せばその一足が道となる 老いて朽ちる前に挑戦を

灯台

縦横取付け可能! コネクタ端子台 VSFシリーズ

FA業界掲示板

■オムロン、有人技術相談チャットお客様満足度調査の結果公表 スムーズな回答に高評価

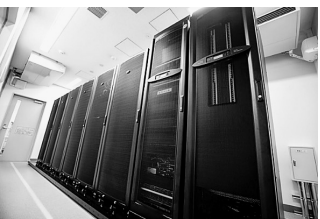
オムロンは、2022年2月に開始した、制御機器サイトのI-Webメンバーズを対象とした有人技術相談チャットサービス「FAクイックチャット」について、お客様満足度調査レポートを公開した。

208人が回答し、回答の迅速さや相談員の対応など総合的な満足度は、温度調節器、リレー、センサなど汎用コンポ機器群に対して問い合わせた人の80%、PLC、タッチパネル、画像センサなどFA機器群に対して問い合わせた人の72%が「とても満足」と回答。「電話と比べてつながりやすい」「FAXやメールより手軽だと感じている」と高評価を得た。

便利と感じた理由については、「担当者にすぐつながり、待たされない」が74%と最も多く、「リアルタイムに早く解決できる」(72%)、「テキストとして記録が残る、見返しやすい」(71%)、「電話に比べて気軽に問い合わせできる」(56%)と続き、リアルタイムに、文字や画像で確認しながらスムーズに問い合わせできる点が評価された。

■シュナイダーエレクトリック、京丹波町役場の新庁舎のサーバールーム構築

シュナイダーエレクトリックは、京都府船井郡の京丹波町役場の新庁舎建設にともない、集約型三相UPS、電源管理製品、サーバーラック、インフラ監視ソフトなどトータルソリューションを導入し、持続可能なサーバールームを構築した。



今回のサーバールームでは、集約型三相UPS「Symmetra PX」を導入し、分散していた小型UPSの一元化と電力容量の最適化を実現。モジュール型の設計のためサーバー負荷に合わせた増設が可能となり、今後の拡張にも対応可能。「Rack-Mount PDU」を導入してそれぞれのIT機器の電源管理も実現し、さらに、UPSやPDUの一元監視を可能にするインフラ監視ソフトウェアStruxureWare Data Center Expertや、THKの防震装置も併せて導入し、防災拠点として持続可能なシステム環境となっている。

■EPLAN、3Dハーネス設計用ソフトウェア新バージョン紹介ブログ記事

EPLANは、ケーブルハーネスの開発とケーブルルートを3Dで設計できる3Dハーネス設計用ソフトウェア「EPLAN Harness proD」新バージョンを紹介するブログ記事を公開した。2022バージョンでは、ケーブルルートの簡単な設計や製造図面の最適化された導出などの機能が追加されている。

■明電舎、メタバース安全伝承館を開発 社員の安全意識向上に仮想空間を活用 明電舎と明電システムソリューション、インフィニットループ、バーチャルキャストは4社共同で、2020年に沼津事業所内に開設した社員の安全意識強化のための教育施設である「安全伝承館」を仮想空間上に再現し、リアルと同様の安全教育が受講できる「メタバース安全伝承館」を開発した。

安全伝承館は、過去に同社で発生した災害や事故の事例を風化させることなく、語り継



ぎ、学び、そして安全を考える場とするためのもので、災害件数の推移や安全への取り組みに関する年表、過去に発生した事故の概要や原因、再発防止対策のパネル展示、災害経験者のインタビューや安全啓発の映像を展示している施設。災害経験者が自らの思いを語ることで、災害の悲惨さと安全確保の重要性を伝える教育施設として運用し、これまでに延べ890人の社員が来場している。

メタバース安全伝承館は、コロナ禍で来場・受講が滞っていたものを解決するために開発し、VRヘッドマウントディスプレイがあれば、場所の制約なく複数の社員が参加でき、メタバース上に集い、意見交換が可能。国内製造現場はもとより海外現法合せて全ての社員参加を目指す。

■キムラ電機、高輝度LED球製造中止

キムラ電機(キムデン)は、高輝度LED球「LE-2001A形」の製造を中止する。中止時期は2023年2月20日受注分まで。推奨代替品はKHE-2200S形、KHE-2010形。

■ヒルシャー・ジャパン、YouTube動画「丸わかり！ゲートウェイの選定方法」公開

ヒルシャー・ジャパンは、YouTube動画「丸わかり！ゲートウェイの選定方法」を公開した。工場の自動化やIoT実現に向けて活用が進むゲートウェイを紹介する動画の第2弾で、ゲートウェイを使うにあたり、使用環境に見合った製品型式を選ぶための「netTAP」シリーズの選定方法を紹介している。

■ミスミ、2022年度「ミスミ学生ものづくり支援」公募開始 製品を無償提供

ミスミは、次世代のものづくりを担う学生に同社製品を無償提供する「ミスミ学生ものづくり支援」について、2022年度の公募を開始した。

この取り組みは2008年から開始し、今年で14回目。これまでに延べ2200を超える高校や高専、専門学校、大学等を支援してきた。

同社WEBサイトの応募フォームからエントリーし、選ばれると同社の商品バリエーションのなかから、5万円相当または10万円相当の範囲内で、希望の商品を無償で譲り受けることができる。応募期間は11月13日まで。選考結果は12月28日までにメールで通知される。

■HTKエンジ、10月からミネベア ソフトウェアソリューションズに社名変更

本多通信工業は、連結子会社のHTKエンジニアリング(川崎市川崎区)の社名を、2022年10月1日から「ミネベア ソフトウェアソリューションズ」に変更した。

9月16日付でミネベアミツミの子会社になったことから、ミネベアミツミのグループ会社としての位置づけ、およびソフトウェアソリューションに取り組んでいくことを明確化するため、社名を変更した。

ミネベア ソフトウェアソリューションズは、システム設計・ソフトウェア開発、システム構築・運用・保守サービス、システムインテグレーションサービス、システムコンサルティングサービス、教育・セミナー事業などを行っている

■大崎エンジの社名を「萩原エンジニアリング」に変更

萩原電気ホールディングスは、大崎電気工業の子会社である大崎エンジニアリングの全株を9月30日付で取得したことから、社名を「萩原エンジニアリング(埼玉県入間市、山内賢社長、資本金4億8400万円)」に変更した。

■NKE、タイミングベルトコンベアのWEB販売開始

NKEは、タイミングベルトコンベア2列仕様シリーズについて、ヘッド駆動タイプ「CSB30-A」と中間駆動タイプ「CSB30」のWEB販売を開始した。タイミングベルトを使用した完全同期の2列コンベアで、パレットなど搬送物を容易にストッパ、エスケープすることが可能。アルミフレームに各種アタッチメント



展示会出展

■安川電機、10月26日から「名古屋オートモーティブワールド」出展

安川電機は、10月26日から10月28日まで、ポートメッセなごや新第1展示館で開催される「[名古屋] オートモーティブワールド」に出展する(ブース10A-7)。

ブースでは、コア技術であるサーボ、モーションコントロールを応用し、高速・高精度でさまざまなレーザー加工用途に適用できるガルパノスキャナ「MIRAMOTION」シリーズを出展し、リングモードレーザー対応の新製品「YD-3000AL」をはじめ、ハイブリッドレーザー専用「YD-3000-IRM-B」、2Dガルパノスキャナユニット「YD-200」など、特に自動車向け二次電池製造におけるソリューションを提案する。

■パトライト、10月26日からスマート工場EXPO(名古屋)に出展

パトライトは、10月26日から28日にポートメッセなごや第3展示館で行われる「スマート工場EXPO」に出展する(ブース25-6)。簡単に設備の稼働監視ができるワイヤレス・データ通信システム「WD PROシリーズ」から複数のアプリケーション接続を可能にした新型受信機等を出品する。

■東芝インフラシステムズ、10月26日から「Japan IT Week【秋】」出展。IoTセキュリティなど展示

東芝インフラシステムズは、10月26日から幕張メッセで開催される「Japan IT Week【秋】」内の「IoT&5Gソリューション展【秋】」に出展する(ブース: 16-39)。

ブースでは、外付けデバイスをどんな環境下でも簡単に専用線のようなセキュアな通信を実現するIoTセキュリティソリューション「CYTHEMIS」と、指紋など人を認証するセキュリティデバイスを使い、所持と生体の多要素で行う本人確認をカード/ドンクルで実現できる生体認証カード/デバイス「BISCADE」を展示する。



が容易に取り付けられ、特殊対応でベルトにプロフィールも取り付けることができる。中間駆動タイプのCSB30は、駆動部を任意の位置に移動でき、モータ取付方向も3タイプの中から選ぶことができる。

セミナー・イベント情報

■オブテックス・エフエー、11月8日から自動車、食品、素材、半導体業界向け課題解決セミナー

オブテックス・エフエーは、11月8日から11日の3日間、「FASTUS業界別課題解決セミナー」として、自動車業界、食品業界、素材業界、半導体・FPD業界の4つの業界のよくある課題解決にフォーカスしたWEBセミナーを開催する。

自動車業界向け(A-1)は、「計測・温度管理の解決例3選」として11月8日11時~開

催。高精度計測や温度管理による品質向上・不良削減、ロボット制御、IoT化、省配線、コスト削減などについて解説する。

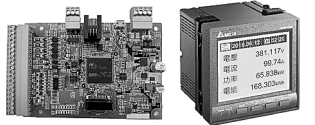
食品業界向け(B-1)は、「画像検査の解決例3選」として11月9日11時から開催する。画像検査や熱画像計測による品質向上・不良削減、AI活用、食品表示対策を解説する。

素材業界向け(C-3)は、「計測・温度管理の解決例3選」として11月10日11時から開催する。高精度計測や温度管理による品質向上・不良削減、装置制御、IoT化、省配線、コスト削減を取り上げる。

半導体・FPD業界向け(D-1)は、「計測・温度管理の解決例3選」として11月11日11時から開催する。高精度計測や温度管理による品質向上・不良削減、IoT化、省配線、コスト削減の対応について紹介する。

いずれも参加無料で定員は300人。Zoomを使って行う。

ス(西ホールW2051・W2052)で出展する。



ブースでは、「カーボンニュートラル対応に貢献するソリューション提案」として、12月リリース予定のPLC「JX-BASIC」を中心に出品する。同製品はモールドスタートに最適で簡単設計な新開発のボードPLCで、電力計を組み合わせで工場における各設備の「消費エネルギーの見える化」を提案する。

■ワゴジャパン、11月8日からJIMTOF2022出展 レールマウント端子台など出品

ワゴジャパンは、11月8日から東京ビッグサイトで開催するJIMTOF2022に出展する(ブース: 南ホールS1034)。

ブースでは、結線方式が3タイプあるスプリング式レールマウント端子台「TOPJOB S」と、その新ラインアップとなる分配端子台タイプとミニサイズを出品。コネクタ製品では大電流対応レバー操作タイプコネクタ「831・832シリーズ」、工具不要の細線対応のレバー操作タイプコネクタ「2734シリーズ」や直列直結タイプのインラインスプライシングコネクタ「221-2411」を展示する。またI/O内蔵で小型化を実現したコントローラ「CC100」や、工作機械分野で実績の多い「IM/PMシリーズ」、高性能で多機能なパワーサプライ「Pro2」など工作機械の配線省力化等をラインアップする予定。

■リタール、2022年11月8日からJIMTOF2022に出展 盤用クーラー新製品を初展示

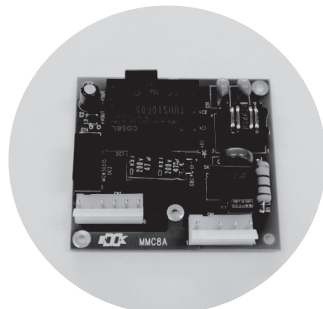
リタールは11月8日から東京ビッグサイトで行われる「JIMTOF2022」に出展する(ブース: 東2ホールE2023)。

ブースでは、盤用クーリングユニット「Blue e」シリーズの新製品「Blue e+S」や盤内空間をフルに使った立体配置による小型化「3D制御盤」、制御盤製造のモジュール化を促進する「モジュラー制御システム」などを展示し、工作機械に最適な製品群を紹介する。

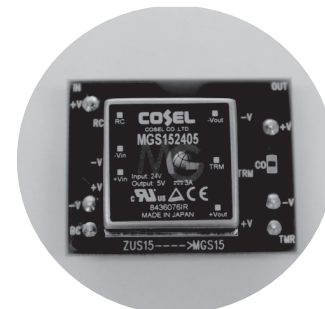
■ソルトン、11月8日からJIMTOF2022出展 産業用スイッチ、コネクタを紹介

ソルトンは、11月8日から東京ビッグサイトで開催される「JIMTOF2022」に出展する(ブース: W3009)。世界の工作機械で採用実績がある産業用スイッチと産業用コネクタを出品する。

お客様の「困った」から製品が生まれます



COSEL MMC8 シリーズ 相当品



COSEL ZUS/ZUW シリーズ 相当品



鹿児島工場
わたしたちにお任せください

POWERED
www.powered.jp

COSEL 商品登録 1000 点以上オリジナル製品も販売中!
在庫品は即日出荷可能



部品調達から実装まで一括管理



日昭無線株式会社
Nisscho Musen Co., Ltd

お問い合わせ: 企画開発課 TEL: 03-3255-6693
東京都千代田区外神田 2-13-1

www.nmk.co.jp

アズビル

生産性向上と働き方改革、
省エネルギーを提案

アズビルは、「進化続ける技術、計画とデジタルで、製造現場の革新と脱炭素社会の実現に貢献」をテーマに、「計測展2022 OSAKA」から「SX」「GX」を実現へ

アズビルは、「進化続ける技術、計画とデジタルで、製造現場の革新と脱炭素社会の実現に貢献」をテーマに、「計測展2022 OSAKA」から「SX」「GX」を実現へ。SXは「生産性向上」と「働き方改革」、GXの推進を目指す「省エネルギー」の3つのゾーンで、製造現場が直面している課題に対して、具体的な解決策を付加価値とともに紹介する。

「生産性向上」で

<https://www.azbil.com/jp/product/factory/event/mcsosaka/>
横河電機／横河ソリューションサービス
横河計測／横河デジタル

DXによる革新的なMONODZUKURIの実践

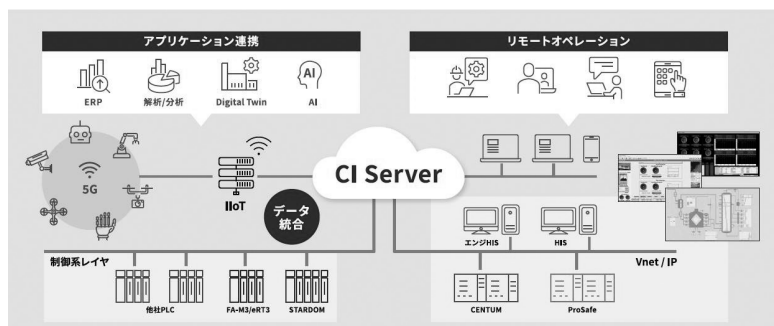
横河電機、横河ソリューションサービス、横河計測は、7月に設立された新会社横河デジタルは、「DXによる革新的なMONODZUKURIの実践」をテーマに出展する。小間重孝。

製造業の重要な課題である工場のSmart化、脱炭素、設備管理最適化、安全・安心の確保を支援する代表的なソリューションと、クラウドやAIなどのDXに貢献する技術、計測機器の点検・校正に役立つ製品を展示する。

見どころは、生産設備のバイパスラインにおけるまわりを、ロボット巡回によって収集した意図データからAI解析で予知・予兆診断する取り組み。NEDOとの実証実験の状況を紹介する。

また、さまざまな生産設備やシステムからデータを収集し、デジタル化のデータ統合・活用を貢献する統合情報サービス(CI Service)、NHTコミュニケーションズとも今年4月から提供を開始したAIプラント運転支援ソリューションの展示にも注目したい。

リアル現場では再生エネを活用した脱炭素経営、DXの社内事例、製造業向けDXに関する3つのテーマで出展者セミナーを実施。オンライン展では、「製造業の経営と現場をつなぐDXを支援する横河デジタル」をテーマにフロンティアセッションを行う。


<https://www.yokogawa.co.jp/news/events/2022/2022-osaka/>

製造現場のDXとGX推進

出展各社の見どころ紹介

は、効率的な生産の維持・管理に貢献する最新製品とオートメーション技術として、使いやすく、予防保全も品質向上に貢献する種

調整計をはじめ、通信ケーブル、マシニングセンター、ワイヤーコントロールを展示。「働き方改革」では、さまざまな計測データを活用したデジタル技術(AI)を用いた各種ソリューションによる製造現場の変革につながる提案を行う。

また、「省エネルギー」では、EMSの導入とデータ活用によるカーボニュートラル追求に向けた現場での支援活動の取り組みを紹介する。

出展者セミナーにも3日間参加するオンライン展セミナーとして、ライブ配信も行い、会場足る通べない方に対して、ソリューションを提案する。

未来のものづくり社会を支える
計測・制御技術の総合展計測展
2022 OSAKA10月26日(水)～28日(金)
会場:グランキューブ大阪サステナブル社会の
未来を切り開く

6つのテーマが軸

同展は、未来のものづくり社会を支える計測と制御技術の総合展として、「未来へ、持続(つな)げる。」をテーマに、サステナブル社会の未来を切り開き、計測・制御業界ならびに全産業のビジネスの成長につながる展示を指している。

開催規模は、リアル出展者は57社・団体(124小間)、オンライン出展者は32社。

今回の展示会の見どころは、「DX(デジタルトランスフォーメーション)からSX(サステナブル・トランスフォーメーション)、そしてGX(グリーン・トランスフォーメーション)」の実現に向けた課題解決につながる展示やセミナー、コンテンツを拡充している。

コロナ後のビジネスでは、企業の価値と将来性を計る指標としてサステナビリティへの対応が重視されており、生産効率の追求はもとより、例えば、生産拠点でのCO₂削減など新たな挑戦に向けたものづくり基盤を支える計測と制御技術の高精度化が必要になっている。

学生応援企画も

セミナーでは、DX・SX・GXを推進するキーマンが登場し、こうした取り組みを紹介。リアル展会期中に開催される基調講演や特別講演を後日オンライン配信するとともに、JEMIMA委員や出展者セミナーなど計測と制御の最新技術や動向を「計測展オンライン・プラットフォーム」で視聴できる。

基調講演は、26日午前11時～正午で伊

計測と制御の最先端技術を紹介する専門展示会「計測展2022 OSAKA」(主催)日本電気計測器工業会が、10月26日～28日の3日間、グランキューブ大阪(中之島・大阪国際会議場)で開催される。また、オンライン展は10月12日～11月25日までの予定で開催中。入場は事前登録制。主催者では、リアル展示会で8000人、オンラインで7000人の来場を目標にしている。

「DX」から「SX」「GX」実現へ

11月25日までオンラインも開催

吹英明経済産業省近畿経済産業局長が「関西経済の未来に向けてカーボニュートラルを中心に」と題して行う。27日午前10時30分～11時30分まで井上知義経済省近畿総合通信局長が「デジタル田園都市国家実現に向けた新たな取り組み(SG・Beyond SG)」と題して行う。

28日の同時刻で高松淳2025年日本国際博覧会協合理事・副事務局長が「Join 2025」の輪を広げようという開催から共創により作り上げる参加型博覧会」と題して行う。

さらに、特別講演・テーマセッション、出展者セミナー、JEMIMA委員会セミナーなども予定されている。

また、産・学・官のアイデアや技術で新時代を切り開く学生応援企画も用意。計測と制御に関連するスキルや有力なソリューションベンダーで活躍する技術者やマーケティング担当者から最新技術動向や業界の将来性を学び、出展企業の社員との交流が可能。「学生のための業界研究セミナー・見学ツアー・交流会」「学生ボスター展示/学生ライティングツアー」などのイベントによって企業と学生をつなぐ。

リアル会場へ行くための事前リサーチはもういっしょ、場所・時間にとらわれず企業ブースや多彩なカンファレンスをつくる見たい・聞きたいという方は、「計測展オンライン・プラットフォーム」も便利だ。

11月25日までの開催期間中は、動画視聴や資料ダウンロードのほか、問い合わせ機能も利用でき、効率的に広く深い情報を入手することが可能。特に、オンライン展示会限定の出展者セミナーやフロンティアセッションでは、「計測展2022 OSAKA」開催に合わせて、出展企業が新サービス・新製品に関する情報を随時発表して入りことから、タイムリーに入手できる。

公式サイト <https://jemima.osaka/>

azbil

人を中心としたオートメーション

あすみる、
アズビル。

オートメーションで未来を描く

アズビルは、計測・制御技術を通して、安心・快適の実現と地球環境に寄与してきました。これからも、お客さまに寄り添い、お客さまの現場における価値の創造により、持続可能な社会の実現に貢献します。

アズビル株式会社

YOKOGAWA ◆
Co-innovating tomorrow™確かな実行力とソリューションを、
革新的なものづくりのために。

産業の自律化を構想するIA2IA (Industrial Automation to Industrial Autonomy)とSmart manufacturingを軸に、さらに革新的なものづくりへ。YOKOGAWAは、先進のソリューションと確かな実行力により、デジタルトランスフォーメーションのゴールを見据えるお客様とともに未来のために新たな価値を生み出していきます。持続可能な成長に向けた、変革のパートナーです。

www.yokogawa.co.jp

Co-innovating tomorrow および Co-innovating tomorrow ロゴは横河電機の登録商標です。

横河電機株式会社

横河計測株式会社

横河ソリューションサービス株式会社

横河デジタル株式会社

計測展2022
OSAKA会期: 2022年10月26日(水)～28日(金) 10:00～17:00
会場: グランキューブ大阪バーチャル展示会 — YOKOGAWA DX Expo — www.yokogawa.co.jp/expo/YOKOGAWA
ブース No.1

工場新設・増設情報 10月第4週

■ロート製菓、三重県伊賀市の上野テクノセンター新棟が稼働 人と環境にやさしいスマート工場

ロート製菓は、マザー工場である上野テクノセンター（三重県伊賀市ゆめが丘7-4-1）について、質の高い一般用医薬品へのニーズ拡大や高機能化粧品への期待といった需要拡大を見据え、生産能力の向上と国際的な医薬品製造基準への対応を目的とした新工場棟を竣工し、稼働を開始した。これにより2024年度にはこれまでの1.5倍の生産能力になる見通し。



新棟は「人と環境にやさしいスマート工場」をコンセプトに、IIoTやAIを活用したサイバーフィジカルシステム（CPS）を実装。全方位カメラやセンサなどのI・IoTデバイスを活用し、異常行動や危険な作業や場所への侵入、製造設備との接近を検知し、作業者本人と管理者にリアルタイムに通知する集中管理システムの構築を行い、労働災害を予防。また、協働ロボットを導入し、人とロボットのそれぞれの強みを活かすライン構築を進め、徹底的に無駄を排除した作業工程や省力化を可能としている。またセンサやカメラによるIoT化から得られたデータと生産計画がCPSで連携し、作業の効率化と自動化を実現し人の肉体的負荷を軽減、自動倉庫における在庫管理の最適化およびリードタイムの短縮を実現している。

さらに既存工場比でエネルギー消費量20％削減を目指し、地中熱や最新の省エネ設備を導入した再生可能エネルギーの活用による環境負荷低減に取り組んでいる。

敷地面積は2万7498平方㍍。延床面積は1万9600平方㍍の4階建。

投資額は85億円。

■ニチレイフーズ、福岡県宗像市に冷凍米飯の新工場 2023年4月稼働開始

ニチレイフーズは、福岡県宗像市にあるグループ会社のキューレイに約115億円を投資し、新たに冷凍米飯を製造する新工場（福岡県宗像市王丸415-1）を建設する。これにより現在の千葉県船橋市の船橋工場と合わせて東西2拠点の冷凍米飯生産体制なる。

新工場は、これまで生産していた業務用米飯に加え、「本格炒め炒飯」をはじめとした家庭用米飯の生産を可能とし、炒め工程を生かした多種多様な米飯商品を生産することができる。またライン上の工夫により、これまで以上に具材を大きくした高付加価値商品等も提供できるようになった。これにより炒め工程を

伴う米飯の生産能力は約150％となり、伸長する冷凍米飯の需要に対応している。

省人化にも積極的に取り組み、従来の人手作業をロボット化、連続工程や無人搬送へ代替すること等を通じて生産性の向上を図っている。

また直火加熱とIH加熱をハイブリッドする独自製法で、炒め工程にかかるCO₂を削減。排熱の有効活用や太陽光パネルの設置、再生可能エネルギーの活用等も推進している。

新工場は鉄骨造り2階建て延床面積は約1万200平方㍍。稼働開始は2023年4月を予定している。

■マスマーフードサービス、千葉県香取市に食品工場 マスマーフードサービスは、千葉県香取市小見川2097番3の小見川産業用地に食品工場を新設する。

土地面積は約1万9000平方㍍で、延床面積は約4100平方㍍。既存工場3階建の建物の内装を改修する。投資額は10億円。

■ジャパンマテリアル、熊本県菊池郡大津町に半導体製造向けガス供給配管等の新工場

ジャパンマテリアルは、熊本県菊池郡大津町大字高尾野字平成272番地15に新工場を開設する。



新工場では、半導体製造向けガス供給配管設計加工や特殊ガス販売管理業務を行う予定。用地面積は6万6545平方㍍で、1万2012平方㍍の既存建屋3工場を改装し、2024平方㍍のガス倉庫棟を新設する。2022年11月の操業開始。投資金額は30億円。

■信越ポリマー、新潟県糸魚川市の糸魚川工場増築、埼玉県さいたま市の東京工場新棟建設

信越ポリマーは、半導体関連市場の拡大を見据え、シリコンウエハ搬送用容器の生産能力増強に向け、糸魚川工場（新潟県糸魚川市）の既存の生産棟をさらに増築する。また、東京工場（埼玉県さいたま市）敷地内にウエハケース生産棟を新たに建設し、主力製品である300mmウエハ用容器の需要増加に備える。

糸魚川工場の増築分は、建屋面積8000平方㍍、投資金額は約105億円。完成は2024年初めを予定している。

■東京工場の新築建屋面積は約1万平方㍍。投資金額は約110億円。完成は2024年秋頃を予定している。

■クミ化成、三重県亀山市に新工場建設

クミ化成は、三重県亀山市菅内町字藤尾に、国内2拠点目となる三重工場を建設する。



同工場では、最先端の自動組立設備と射出成形設備や原材料の自動計量・自動供給システムを設置し、材料ロスが防げるシステムを導入し、環境に配慮した高効率で安定した生産工程を実現し、自動車内外装の樹脂成形部品を生産する。また熱を逃がす屋根構造や断熱性の高い外壁を採用し、屋根には太陽光発電設備を設置し環境配慮型工場となっている。

土地面積は約3万4248平方㍍、工場・事務所は鉄筋造り平屋建ての8133平方㍍。2023年3月に竣工し、6月に操業開始する予定。投資額は約33億円。

■加藤産業と兵庫興農、兵庫県丹波篠山市に農産物加工食品の新工場建設

加藤産業と兵庫興農は、兵庫県丹波篠山市にジャムやピーナッツバター等、農産物加工食品の製造を行う新工場を建設する。竣工予定は2023年7月末。稼働は2023年11月を予定している。

■KOKUSAI ELECTRIC、富山県砺波市に半導体製造装置の新工場を建設

KOKUSAI ELECTRICは4日、半導体デバイスの需要拡大に対応するため、富山県砺波市下中条（砺波スマートインター柳瀬工業団地）に、主力のバッチ成膜装置や枚葉トリートメント装置などを製造する新工場を建設する。新工場と既存の生産拠点（富山県富山市と韓国）の生産能力拡大により、2021年3月期と比較して生産能力は約2倍になる見込み。

敷地面積は約4万平方㍍、建屋は地上3階。着工は2023年。竣工は2024年を予定している。投資金額は約240億円。

■キヤノン、栃木県宇都宮市の宇都宮事業所に半導体製造装置の新工場

キヤノンは、半導体製造装置などを生産する宇都宮事業所に新工場（栃木県宇都宮市清原工業団地22-2）を建設し、半導体製造装置の生産能力を強化する。敷地面積は約7万平方㍍。投資額は約380億円（建設費）、着工予定は2023年下期、稼働は2025年上期の予定。

■エーザイ、岐阜県各務原市の川島工園に新注射剤棟・研究棟が竣工

エーザイは、岐阜県各務原市川島竹早町1の川島工園に建設を進めていた新注射剤棟・研究棟が竣工した。



新棟はコロナウイルス製剤・モダリティ研究の拠点として、リポソームや脂質ナノ粒子製剤を含む注射剤の製剤開発研究機能とドラッグデリバリー技術開発機能を強化し、さまざまなモダリティの開発に対応する。具体的には、最新の製造データー括管理システムの導入とAI活用による製剤プロセス研究の高質化と迅速化、治験薬製造も可能となる設備導入による注射剤治験薬製造の内製化、微生物迅速試験法の導入による先進的な微生物管理・無菌性保証、社外との共同研究にも使用が可能なフレキシブルスペースの設置による外部技術とのコラボレーションの強化などを通じて、製剤に関するイノベーション、テクノロジー、ソリューションの発信基地となることを目指す。

建物は地上3階建、延べ床面積は1万1000平方㍍。総投資額は約100億円、

■エスエス製薬、千葉県成田市の成田工場の新製剤棟が竣工

エスエス製薬は、成田工場（千葉県成田市南平台1143）で新製剤棟が竣工した。



今回の新製剤棟増設（総工費24億円）は、解熱鎮痛剤「EVE」を始めとする、同社の主力製品の製造

ライン増強に向けて、日本政府、千葉県、成田市、と日本貿易振興機構（ジェトロ）の支援を受け実現した。

新製剤棟は、空調設備に非稼働モードを導入し省エネルギーを実現するなど、サステナビリティの観点に配慮して設計されているほか、エルゴノミクスに基づいた作業負担を軽減するための、バランサー装置（重量物運搬サポート）や、粉が舞い上がらない環境で秤量ができる設備を導入するなどして、社員がより安全、安心に生産活動ができる環境を整備している。

今後試運転を行い、2023年から本格生産を予定している。

■秋田エプソン、秋田県湯沢市にインクジェットプリンタ用ヘッドの新工場建設

セイコーエプソンのグループ会社である秋田エプソンは、インクジェットプリンタ用ヘッドの生産能力増強のため、総額約35億円の投資を行い、現在の秋田エプソン敷地内（秋田県湯沢市岩崎字壇ノ上1番地）に新棟を建設する。新棟は2022年11月から建設を開始し、2023年12月竣工を予定している。



新棟では、インクジェットプリンタの基幹部品となるインクジェットヘッドの製造・組立を行い、これにより将来的にはインクジェットプリンタ用ヘッドの生産能力を現在の3倍程度にまで拡大できる見込み。

また既存工場棟に併設して建てられ、Precision CoreマイクロTFPプリントヘッド生産拠点秋田エプソンへの集約による効率性も考慮した計画となっている。生産設備は人の生産性やスペース生産性のさらなる向上も織り込んだかたちで工程整備を進めていく。

建築面積は3668平方㍍、延床面積は1万683平方㍍。

■東京計器、栃木県那須郡那須町の那須工場に新棟建設

東京計器は、那須工場（栃木県那須郡那須町高久甲3-1）に衛星組立棟を建設する。

同社はSynspecativeと小型SAR衛星向けの量産化に向けたパートナーシップを締結しており、マイクロ波応用製品の製造・販売を核としながら、新たに衛星組立を手掛けることで宇宙事業の拡大を推進している。

新棟は小型衛星を複数機同時に生産できる組立作業エリアを備えるものとなり、2023年5月の竣工を予定している。投資額は約6億円、延床面積は1715平方㍍。

■富士フィルム、富山市にバイオCDMO拠点を新設 2026年度稼働開始

富士フィルムは、ライフサイエンス領域の事業成長の加速に向け、同社として国内初のバイオCDMO拠点を富山県富山市に新設する。新拠点は、富士フィルム富山化学による設備投資を通じて設立するもので、2026年度の稼働を予定している。

富士フィルム富山化学の既存工場の敷地内に設備投資を行い、バイオ医薬品の生産プロセス開発が可能な設備の導入に加え、バイオ医薬品の治験薬製造・商業生産が可能な新棟を建設する。平時には抗体医薬品・抗体薬物複合体（ADC）などバイオ医薬品の製造、パンデミック時にはmRNAワクチン・遺伝子組み換えタンパクワクチンの製造が可能なデュアルユース設備を整備し、原薬製造から製剤化、包装までを一貫して受託できる体制を構築する。

バイオCDMOとして30年以上の実績を有し、幅広いバイオ医薬品の開発・製造受託に対応できるFUJIFILM DiosynthBiotechnologiesの培養・精製技術や遺伝子組み換え技術など最先端のバイオテクノロジーを導入することで高効率生産を可能とし、高品質なバイオ医薬品の迅速かつ安定的な製造を実現する。

UNIX JAPAN UNIX

世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格

グローバルに通用する製品品質を備え、
世界各地での躍の第一歩に――



ジャパンユニックスでは
IPCの標準規格書・情報・サービスを
提供しています

IPC 標準規格書 無料版 まずは web からダウンロード

『IPC』『規格』『無料』で 検索

はんだ付工程を
見える化する

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』ではんだ付のIoT化へ
ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
付加軸 2 軸を加えた 6 軸同時制御により
ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



ジャパンユニックス製品 導入事例集 web にて公開

『はんだ付 導入事例』で 検索

株式会社 ジャパンユニックス
http://www.japanunix.com

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-25 Tel. 03-3588-0551 Fax. 03-3588-0554

大阪営業所 Tel. 06-6190-4580 Fax. 06-6190-4581

名古屋営業所 Tel. 052-679-2111 Fax. 052-679-2112

テクノセンター Tel. 096-287-4501 Fax. 096-287-4503